

## 長崎市提案型協働事業 令和3年度実施事業

### 評価結果及び審査会コメント

#### ◆評価項目及び評価結果

団体名	一般社団法人トムテのおもちゃ箱	担当課名	こども政策課 (旧：子育て支援課)
事業名	切れ目のない子育て支援環境整備事業		
	評価項目	評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	B
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	B
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	A
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	A
	総括	A	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている

B…優れている

C…どちらともいえない

D…どちらかといえば不十分である

E…不十分である

#### ◆審査会コメント

初めて妊婦となった方を対象に、産前から子育てに関する必要な情報を提供する当事業は、参加した人々の不安感や孤独感を和らげる満足度の高い事業となった。支援が必要な人々のニーズやアンケート結果をもとに、多くの改善や充実が図られた結果であり高く評価できる。

一方で、事業の成果を考える際に、プレママカフェの定員に対する参加率が一つの目標値として設定されていたが、初めての取り組みであることやコロナ禍の状況であることを勘案しながら、適宜、団体と担当課が協議して見直しを図ることも必要ではなかったかと考える。

団体については、今回の事業を通じて他の子育て支援センターなど支援者同士の連携が図られ、切れ目のない子育て支援のネットワークが強化されているので、これからも幅広く協働しながら子どもの健やかな成長を支えていただきたい。また、コロナ禍など困難な状況に対応しながら粘り強く事業を実施された姿勢は、他の市民活動団体等への模範となることから、今後、本事業の経験から得たノウハウが他の団体と共有されることを期待したい。

担当課については、事業の振り返りが十分でないと思われるため、報告会で示した今後の事業展開を、この協働事業で得た教訓を踏まえて再度検討し、切れ目のない子育て支援環境の構築に努めてほしい。

## 長崎市提案型協働事業 令和3年度実施事業

### 評価結果及び審査会コメント

#### ◆評価項目及び評価結果

団体名	もってこい長崎レクリエーショングループ お手玉の会	担当課名	市民協働推進室
事業名	「知って」「考えて」「行動する」よかまちづくり事業		
	評価項目	評価基準	評価
①	協働のプロセス	・目的を共有し、相互理解を深めながら、対等・自立の立場で事業に取り組んだか。 ・協定書に明記した役割分担を十分に果たし、双方に十分協議しながら事業を進めたか。	B
②	目的・目標の達成度	・事業は予定通り順調に実施できたか。 ・事業の目的や目標を達成できたか。	B
③	市民の満足度	・事業の実施により、市民の関心や評価は高まったか。	B
④	協働の相乗効果	・協働で実施することにより、事業効果は上がったか。 ・事業の質の向上や、行政・市民活動団体間のネットワークが強化されたか。	B
	総括	B	

※ 評価項目における評価基準

A…大変優れている      B…優れている      C…どちらともいえない  
D…どちらかといえば不十分である      E…不十分である

#### ◆審査会コメント

『長崎市よかまちづくり基本条例』の理念を浸透させるためのイベント「よかまちセミナー」及び「よかまち虹カフェ」を開催することで、若者から高齢者まで多世代の人々がつながる新たなネットワークができたことは評価できる。

また、団体の“レクリエーション”という専門性を協働事業に活用したことで、単なる研修会ではなく、一人ひとりが主体的に参加できる内容となり、結果、会場が熱気を帯びたのではないかと感じている。

今回のよかまちセミナーなどのイベントに参加した市民には理念が浸透したことは理解できるが、それ以外の市民にどこまで拡がり浸透したのか判断が難しい。幅広い市民に継続して理念の周知を図るため、引き続き小規模でも何らかの形で事業を実施するなど、団体と担当課の協働、もしくはそれぞれの活動としての新たな展開に期待したい。

そのためにも、特に担当課を含む長崎市においては、同市の喫緊の課題である『長崎市よかまちづくり基本条例』の市職員や市民への周知、共有と具体化について、早急に検討して取り組みをはじめべきであると考えます。